

Neues in Nara

Nr. 3 8

2012年3月18日



(C) Mawil

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or/jdgn/index.html>

事務局: 加納(Tel/Fax 0742-22-3636) 林(hayashi@mercury.sannet.ne.jp)

“これは会員相互のコミュニケーションツールです。皆様からの情報は事務局へ”

行事予定

1. バイエルン青少年交流プログラム(4月)

会員の皆様からホームステイ受入と行事協力の申し出を頂き、下記の通り実施の運びとなりました。

- 1日 バイエルンから青少年10名、引率者2名来奈
- 2日 ガイダンス、歓迎交流昼食会他 於大安寺
- 3日 奈良公園観光、奈良女子大学生との交流
- 4日 奈良町散策、にぎり墨体験(錦光園)
- 5日 フリー
- 6日 拓本体験 於奈良市観光センター
- 7、8日 ホストファミリーとの交流
- 9、10、11日 京都観光
- 12日 藍染め体験 於奈良芸術短期大学
- 13日 天理大学生との交流
- 14日 帰国(23:58開空発)

尚、2日の歓迎昼食会(12時~14時、大安寺)への参加希望の方は3月28日までに事務局宛 FAX又はメールにてお願いします。

参加費は2,000円です。

2. 全国日独協会連合会年次総会及び若手会員の集い

期日: 4月14日(若手会員の集い)

4月17日(連合会年次総会、懇親会)

場所: 東京ドイツ文化会館、ドイツ大使館

奈良からは、上野理事が代表参加します。

3. 奈良日独協会年次総会

期日: 5月13日(日) 15:00~

場所: 大安寺 詳細は追って案内します。

ドイツ関連行事の案内

1. 「ムジークフェストなら2012」

6月14日から24日の11日間、ドイツ音楽を中心とした音楽祭が奈良市内各所で開催されます。

14日には奈良文化会館で榎本大進氏(ベルリンフィル・コンサートマスター)とロシアナショナル管弦楽団の演奏会が、15日には新公会堂などでドイツ音楽やクラシック演奏会が、23日には大安寺で竹供養の日に合わせて木管アンサンブルの演奏が行われます。河野会長はこのフェストの実行委員会メンバーです。

2. 13人のドイツ・コミック作家展

オルタナティブから MANGA まで

会期: 3月27日(火)~4月22日(日) 月休館

場所: 奈良県立図書情報館(主催)

本企画展は、近年国際的に関心が高まる、ドイツ・コミック作家13人を紹介する展示会です。ドイツには豊かなコミック文化の歴史があるにも関わらず、近年までコミック界であまり注目を集めてきませんでした。(右上へ)

この展示会 = 左上写真は2010年夏から、世界各地のゲート・インスティテュートを巡回しているワールドツアーの一環であり、近年世界的に注目を集めるドイツ・コミックスを見る数少ない機会のひとつです。

3. NaFu!ふれあいCooking~ドイツ家庭料理~

日時: 4月1日(日) 9:45~12:15

場所: 奈良市生涯学習センタークッキング教室

ドイツ人留学生ジェニファーさんと母親のドイツ料理教室です。参加費1,500円

申込先: E-mail nafu@nafu.jp Fax0742-25-0023

NaFu(国際交流ふれあいの会)事務局井上信子氏

会員だより

ファイナンシャルプランナー業務など幅広く活躍されている足立勝洋さん(写真:左)より投稿いただきました。

さて、ドイツのことである。40年前に若くして西ドイツに商社駐在員として派遣されたのが始まりである。当時は日本の存在感すら覚束ない時代であった。かの機械技術大国に日本の工作機械を輸出しようというのである。右も左も分からないなりに、愛車のベンツで走り回ったものだ。ドイツのひとについて、よくいわれている、他人の庭が汚いのも注意する人達だ、Fenstergucker に常に監視される、というのは本当だった。



パリに支店を出すというので、先遣派遣され、フランスの人達とも付き合えたのは、独仏隣国比較の上でも貴重な経験だった。皆さまを失望させることになるかも知れませんが、日本人はドイツ人に似てると、巷ではよく言われたりするのですが、とてもとてもあのドイツのひとたちの徹底主義にはついて行けない日本人が多いことでしょう。ルール好きで、それを守ろうとする。日本人はやはりフランス系ではないかというのが私の観察です。頭はよいが、適当なところもまた多い。

その後、転職しても、またドイツの本場にディーゼルエンジンなどを輸出し、販売会社を彼の地に開設する機会があった。ドイツの人の機械好きと、本当に良いもので、アフターサービスもしっかりしていれば、市場に受け入れて呉れるということで、大いに苦勞のし甲斐があった。

オフにも、良く旅行し旧東ドイツも含め、走り回りました。スキー、ビール、音楽も楽しみました。

有難うドイツ! またお会いしたいですね!